

令和5年度あおもりフィールドスタディ支援事業

青森中央短期大学ちゅっぴいふぁ～むサークル

ちゅっぴいふぁ～む ～つながるプロジェクト～

1. ちゅっぴいふぁ～むサークルの紹介

目的：空き農地を活用し、花や野菜を育て、園芸療法などにより人との交流を再生・促進する。
また、孤立孤独の軽減・若者の地域定着化を目的とする。

活動内容：①花や野菜の成育活動
②多肉植物の生育
③収穫野菜でみんなの食堂
など

参加は強制ではありません。
参加したいときに参加者と
楽しめます♪

サークルメンバー構成：・青森中央短期大学幼児保育学科
・青森中央短期大学専攻科福祉専攻
・青森中央学院大学経営法学部・留学生
・青森中央学院大学大学院

2. ちゅっぴいふぁ～むサークルの活動

サークル実施 木曜 10:30~12:00 臨時で土日も開催

コミュニティガーデン横内

- ①8月：花壇整備
学生と地域の方が協力し、寄せ植え・芝はり・草取りを実施した。(60名)
- ②8月：学生と地域の方で多肉植物の寄せ植え体験を実施した。(10名)
- ③8月：魔女集会(上級編)
ぼうき作成には花を乾燥させる必要があり、学生が地域高齢者に生活文化の伝承として教わる。(60名)
- ④9月：みんなの食堂「避難食配布」
地域の方と協力し、おにぎりを400食作り、配布した。(420名)
- ⑤9月：メロン栽培教室
学生が講師となり、メロンの産地、作り方を子どもや保護者に説明した。(40名)
- ⑥10月：みんなの食堂「カレーづくり」
コキアの収穫をしながら、留学生がカレーを作り地域の参加者に配布した。(25名)
- ⑦11月：みんなの食堂「カレーづくり」
コミュニティガーデン横内 花壇整備(25名)

コミュニティガーデン
-みちぎんどリームスタジアム-

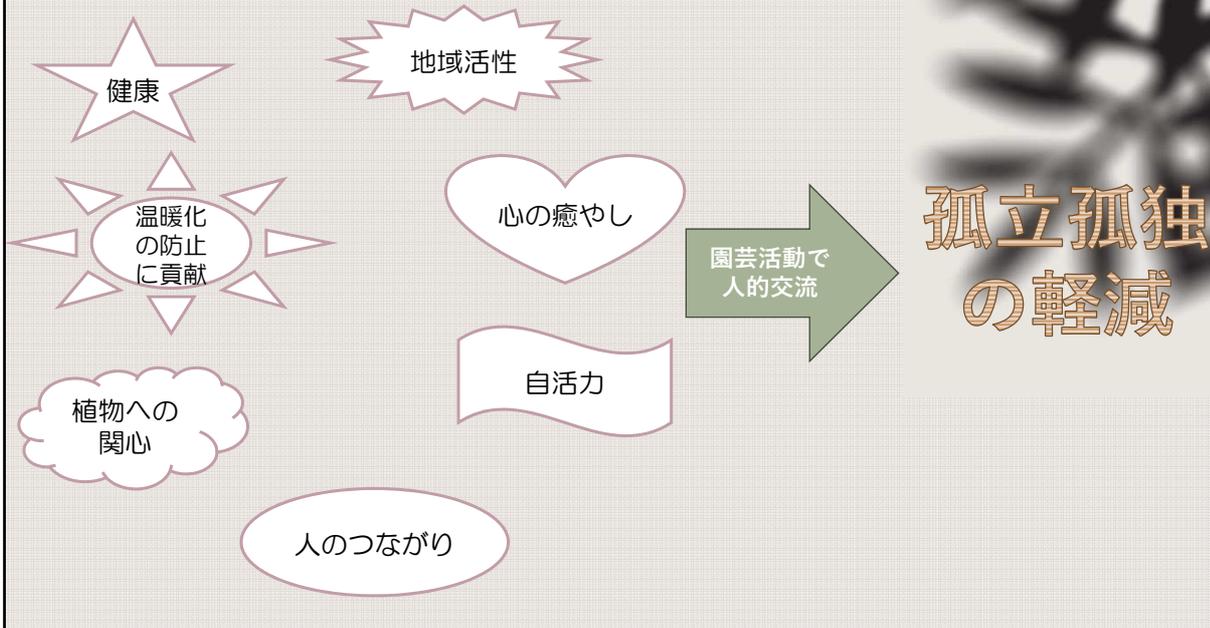
- ①8月：花フェス
みちぎんどリームスタジアム
地域の方と留学生たちが協力して、沢山の花を植えた。(10名)
- ②8月：地域の方や学生で花の水やりで交流した。(3名)
- ③9月：地域の方と留学生と花壇に多くの花を定植した。(10名)
- ④11月：花壇整備(10名)
- ⑤11月：春の寄せ植え体験(10名)

つがる市・弘前市

- ①8月：メロン栽培視察
メロンロードも栽培者産に簡単なメロン栽培の方法を教授いただいた。(3名)
- ②10月：リンゴ栽培視察
リンゴの栽培方法について、リンゴ農家さんに教授いただき、若者の農業下の関心が高まった。(4名)

合計参加人数のべ690名

3. ちゅっぴいふぁ～むサークル活動の目的



4. コミュニティファーム横内

青森中央短期大学の学生や留学生たちが、地域の方々からアドバイスを聞きながら、野菜や花を育てました。
さらに、育てた野菜を包装して、マックスバリュ浜田店にて、販売させていただきました。



5. みちぎんどリームスタジアム-コミュニティガーデン-

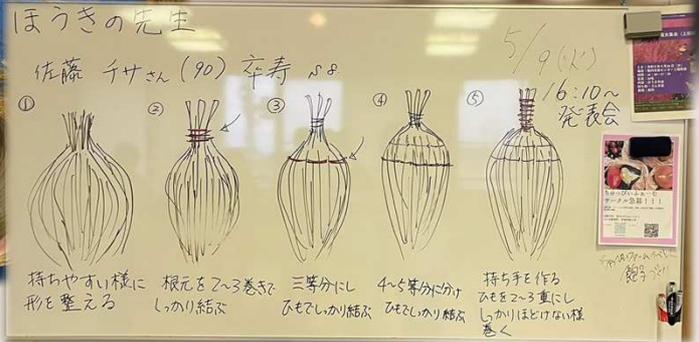
専攻科福祉専攻科の今さん（カーリングコーチ）から、「みちぎんどリームスタジアム」の入り口前の花壇を整備してくれる人を募集していると聞きました。
そこで、ちゅっぴいふぁ〜むサークルで花を植えて整備しました。



6. 魔女集会—ほうきづくり—

魔女集会では、学生と地域の方々が協力して作った「コキア」という植物を乾燥させて、学生が地域の方にほうきの作り方を教わるという企画です。

毎年、横内地区に住んでいる佐藤チサさん（90）にコキアでのほうき作り方を学生が伝授していただき、地域の方々や留学生、他学科の生徒と交流をしました。



7. みんなの食堂

みんなの食堂では、中国の留学生から本格的な水餃子の作り方を教わり、みんなで食べました。



8. メロン栽培教室

学生がメロンの栽培方法をメロン農家の方に教わり、メロンを栽培しました。



つがるメロンロード
直売所 丸新農園
新岡 正基さん



9. 収支決算

1 収入の部

(単位：円)

区 分	決算額	摘 要
自己負担額	99,574	
青森市産学官連携プラットフォーム事業費	99,574	
市補助金額	396,000	令和5年度あおりフィールドスタディ支援事業補助金
その他		
合 計	495,574	

2 支出の部

(単位：円)

科目	決算額	摘要
事務費	356,378	消耗品、園芸用消耗品費
原材料費	32,496	みんなの食堂食材
印刷製本費	106,700	活動冊子制作費
合 計	495,574	

10. 成果報告

- 本プログラムでは、屋外での活動が中心であったため感染症の影響はうけにくく延べ690名の参加が得られた。参加者へ参加後の聞き取りでは、子どもから高齢者まで、「楽しかった」「また参加したい」といった感想が多かった。
- コミュニティガーデンでは、普段交流のない人同士が園芸活動を共にすることで話をするきっかけになったり、花を楽しむきっかけとなることが考えられる。
- 花壇の整備や、外で食事を作ったものを提供する「みんなの食堂」は、災害等があったときに、顔の見える関係の構築につながる有意義な活動であると考えられる。
- 参加した若者が、社会福祉としての意義を理解したうえで、地域定着や、人とのつながりの創出ができ有意義な活動であった。

11. 総評

園芸活動を中心とした活動によって世代間のコミュニケーションのきっかけづくりとなった。また、本活動は屋外での活動が中心であることで、新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくくまた、参加者の積極性によって人的交流の促進につながった。そして、若者が多くの園芸活動に係ることで青森県の魅力を発見できる機会にもなった。

新型コロナウイルス感染症がの流行が少しづつ落ち着く中、突然の自然災害も否めない。日頃より、園芸活動を中心としたこのような活動が健康や、自活力、心の癒し、温暖化の防止、地域活性等となり人とのつながりから孤立孤独の軽減安心して暮らすSDGs11住み続けるまちづくりに寄与できると考えられる。

御礼

- コミュニティファームを地域交流のためにお貸しくださいました小山内さま、毛利さまに心より感謝申し上げます。
- 本活動に多くの力を注いでくださいました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

12. 感想

コミュニティガーデン

- 花を植えたりしたことがなかったですが、地域の方々と交流しながら楽しく植えることができました。
- 花がきれいで香りもよく、とても癒されました。
- 水やりがとても楽しかった。(10名)
- どんな花が咲くのか楽しみだった。
- 夏は水やりに工夫が必要だと思う。

